

おお大勝利

平成 31 年度／令和元年度 山東サッカー一部報第 4 号 (5 月 9 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

GW 中の 5 試合 3 勝 2 分け

今年の 10 連休、山形県リーグ (Y リーグ¹) 2 試合、村山地区リーグ (M リーグ) 3 試合がありました。4 月 28 日 Y2A 第 3 節山形中央 B 戦、30 日 Y2A 第 4 節酒田西戦、5 月 3 日 M リーグ第 1 節創学館戦、4 日 M リーグ第 2 節山形明正戦、5 日 M リーグ第 3 節寒河江戦。Y リーグは年間を通じて²、8 チームの 2 回総当たりで 14 節あるのに対して、M リーグはこの 3 日間で終了。地区総体につながるリーグ戦で、M リーグ・地区総体は、県総体の出場チーム決めが第一の趣旨。今年はシード校³を除いて、村山地区に 6 枠与えられたので、村山地区所属のシード校 4 つ (山形中央、日大山形、東海大山形、山形城北) を除く 12 チームを 3 ブロックに分け、上位 2 チームにそのまま県総体出場権を与えることとなった。ということは、地区総体前に (M リーグで) 県総体出場が決まってしまうわけで、地区総体が完全に消化試合になってしまい寂しいとの声はあったが、そのやり方が一番明快だろうということになって決定された。

まず 4 月 28 日 (日) Y2A 第 3 節山形中央 B 戦。中央 B の第 1・2 節の戦いを観たが、「この選手が B か〜 (A じゃないんだ〜)」との感嘆が漏れてしまう。攻撃にも守りにも、他チームだったら絶対 A の主力になる選手がいる。羽黒 B 同様、後方から (GK、DF から) 丁寧につないでくるが、ビルドアップ志向が羽黒 B よりも強いため、この節の山東はそれをとがめる布陣／システムをいきなり (練習もせず) 採用し、勝負に出る。このシステム採用を可能にしたのは、**3 月の千葉遠征で負傷した 3 年 DF ダイキの復帰**。もちろん**清野総監督 (後援会名誉会長)、工藤先輩、後藤報道局長**という「いつものお三方」はそろい踏み。ちなみに、以降の試合もいらっしゃって下さったので、お三方の紹介はこの一回で終了。試合が始まると、前節同様に守備意識の高い山東が、技術に勝る相手に守備で対抗し、ショートカウンターを仕掛ける。特に、**中央 B のビルドアップに合わせたシステム採用がはまり、相手を苦しめている**。システム初採用の混乱も目立ったものではない。「十分行ける」との手ごたえを感じていた矢先、前半 10 分過ぎに DF ラインの不用意なプレーからボールを奪取されると、高い位置を取っていた GK の頭越しに技巧的なミドルルー

¹ 山東は現在県リーグの 2 部の A ブロック (Y2A) 在籍。2 部には AB2 ブロックありますが、抽選によって決定される実力差のない 2 ブロックです。

² といっても、降雪や選手権予選等を考慮し、県リーグは 4 月から 9 月までの半年で終了します。

³ Y1 以上の上位 8 チームに与えられます。現在、Y1 以上に高体連のチームは 7 つしかないので、シード校は 7 つということになる。

プシュートを決められ、失点。**他の時間は守備が安定していただけに、非常にもったいない失点**だった。ボールの奪われ方が悪すぎたし、相手のシュートが巧すぎた。しかし、その後も中央 B の攻撃に対して「攻撃的守備」とでも言おうか、ボールをしっかりと奪いに行く守備⁴ができており、珍しいことだが、**頼もしく試合を観ることができた**。ただし、決定機を多く作れているわけではなく、攻撃に厚みがない。後半も山東の守備が安定。当然ボールの奪われ方が悪く、また、相手のゲームメーカーのパスセンスに翻弄され、中盤でヒヤッとすることがあっても、ゴール前まで迫られることはない。ただ、決め手に欠くので「このまま敗戦か〜、もったいない試合だ」と諦めかけた後半 40 分過ぎ、**CK 後の混戦を頭ではなく足で 2 年 CB ヤグチが決め、終了間際の同点劇**。そして、1 対 1 の引き分けで終了。もちろん「負けなくてよかった〜」と安どする試合だったが、あれだけ良いボールの奪い方をしてちゃんと得点できないのは、攻撃力のなさ以外の何物でもない。そんな中ではありましたが、**応援に回った 2 年ハクとコヤの声、とても大きく響いて、選手の力になっていましたね**。

さて、4 月 30 日（火）Y2A 第 4 節酒田西戦。酒西は去年は Y1 に所属し、降格してきた相手。2018 年シーズン、山東が Y1 から降格すると入れ替わる形で Y1 に昇格したチーム。残念ながら Y1 定着とはいかなかったが、**粘り強い守備からの必殺カウンターには決定力あり**。去年は選手権にて、優勝候補の一角だった山形中央を 2 回戦（山中の初戦）で破っている。ということで、もちろん強敵ではあるが、粘り強い守備からのカウンターを得意とする相手だけに、**前三節と異なり山東がボールを持つ／持たされる時間は長くなる**だろう。前三節で、華麗な攻撃はできないが粘る力をついたことを印象付けた山東だが、人工芝の山形市球技場で（相手にボールを持たせてではなく）自らボールを持って試合を主導できるか、問われる試合となる。試合には、応援に**ベジことイシハラ**（山東第 68 回卒）、**ババ、タカヒラ、ミヤガワことササキ**（以上 69 回卒）の 4 名が応援に駆けつけてくれた。春の遠征に帯同してくれたベジには、特に成長した姿を見せたいところ。試合が始まると、球際に勝る山東が押し気味に試合を進めるものの、FW が全く起点をつくれな、MF のパスが繋がらない、DF が蹴ってばかりいるの 3 拍子が揃って、まったく決定機を作れず。その前でミスをするか、非常にしっかりと守備を見せる相手 DF にボール

⁴ 近年は、サッカーの戦術論がかまびすしく、子供たちのなかでも頭でっかちになっている選手が見受けられます。緩い寄せをしているので、「何でしっかり行かないんだ」とたしなめると、「寄せて限定していたんです」などと言い返す選手もいます。**奪いに行く迫力があるからこそ相手のプレーを限定させることができる**、という当たり前のことに気付いていない（3 種までの間に理解させられていない → 逆に 3 種までの間で変な癖がついている）選手が見受けられるのは、残念なことです。もっと言うと、**寄せたつもりになっているだけで、すぐ奪える位置にいない（間合いが遠すぎる）選手も多い**です。恐らく、3 種までの間に、奪いに行くとすぐかわされると「プレーが軽い／一発当たり」と評価され、「もっと慎重に行け」との指導を受けていると思われる。かわされたら終わり（失点に直結する）などの特殊な状況なら別だが、身につけてほしいのは**ボールに直線的に当たりに行きながら（ボールを奪いに行きながら）、足で奪えないときに瞬時に体をぶつけて体を入れてボールを奪取するプレー**。通常は、待つのではなくボールにチャレンジしないとダメ。私も選手時代、待ってくれる相手に対して、「良かった〜、トラップ際すぐ奪いに来られたら対応できず奪われてたな〜」などと感じることも、非常に多かった。特に長い距離走ってトラップした直後など、そう感じることも多かった。**一見相手がトラップに成功したと思われても、次のプレーにすぐ移れるかどうか、良い守備者ならそれを感じ取り「今なら行ける（今奪いに行ったら奪える）」と判断することができます**。

を奪われるか。また、山東左サイドから相手が攻め、大きく右に振って攻める攻撃を形にされそうになる。ハーフタイムでその点を修正し、後半に入る。後半も試合展開は相変わらず。**途中で個性派俳優 3年ウエノを投入して流れが変わり**、攻めが連続するようにはなり、ウエノからのパスをノブが受けて GK と 1 対 1 となったシーンや、CK で 2 年 CB ヤグチが頭で叩き付け、バウンドしたボールがクロスバーに当たって入らなかったシーンなど、決定機を作り出しはした。しかし、**結局両チームスコアレスの引き分け**。後半の後半は、徐々に相手のキーププレーヤーに仕事をされてしまい、ヒヤッとするミドルシュートを打たれるなど、内容は最悪。**引き分けどころか、失点→敗戦もあり得た**。試合後、先の 4 名の OB が挨拶に来てくれたが、**先発し途中交代した 2 年 FW ヒラマサの兄タカヒロ**からは、「(試合前の降雨の影響で) ボールがスリッピーだったからパスが繋がらなかったんですね」とヘラヘラした笑いとともに念を押され、「関係ない(観てればスリッピーじゃなかったとしてもスキル・判断力不足によりパスが全く繋がらないのは分かるだろう、分かっててあえて傷に塩を塗るんじゃない)」と返すので精一杯。もちろん () 内は発言してないが、**この日のボールを持った時の稚拙さは、山東がボールを持つ時間の長くなる M リーグへの不安を高めた**。そうそう、忘れずに付言しなければならないのは、この試合の終盤に **3 年アキシン** が「いつもの膝」を「いつも通り」やっちゃったこと。彼はこのチーム唯一と言っていいが、攻撃にアクセントをつけることのできる選手。彼の故障は痛い。

そして、次は M リーグ 3 連戦。5 月 3 日 (金) の M リーグ初戦の創学館戦は、私が家事都合で不在だったため、高橋コーチに采配をお願いすることに。以下は、**故障により試合を応援したアキシンのレポート** となります。

とある怪我人のレポート

5/3 M リーグ第一節は対創学館戦。県総体の切符を懸けた大事な M リーグの初戦であり、勝つことを目標にするのは当たり前だが、リーグ戦なので結果によっては得失点差も関わってくるため、いろいろな意味で大切な試合である。

今野先生不在のこの日、指揮を執る高橋コーチより様々な指示を受け試合に臨む。開始直後は山東の流れ。相手コートに押し込み、サイド攻撃から一本目のコーナーキックを得ると、**MF 鉄人ノブ**のボールを **CB ヤグチ** が頭で合わせ前半二分に早くも先制。昨シーズンはよく見たこのパターンだが、今シーズンこの形での得点は久しぶりであり、この得点で大きく勢いに乗った山東。その後、**FW ツノダ** のボールに **FW 十カノ** が合わせ二点目。さらに **左 SB コウダイ** がこぼれ球に右足を振り抜き三点目。また、**十カノ** のクロスが直接ゴールに吸い込まれさらに追加点。前半を 4-0 で終える。大量得点は獲ったが、得点のチャンスはまだあったので、点は獲ったがそれ以上に「決め切れなかった」という印象の前半だった。

ハーフタイムをはさみ後半に入ると「さらに追加点を！」とベンチから檄が飛ぶ。前半同様、山東の押し込む時間帯が続く中、ショートコーナーからの流れで、**MF ノブ** がサイドの深い位置から相手 2 人を抜き去り、角度の無いところからシュートを決め得点を奪う。その後は、なかなかシュートが打てない時間が続くが、ショートカウンターから **MF ノブ** が相手の裏にスルーパス。走り込んだ **FW オサ** がそれを冷静にゴールに流し込む。**この試合のゴールの中で一番いい流れからのゴール** だった。

このあたりから控えの選手も出場。ゴール前からのこぼれ球を **MF エグチ** がダイレクトで合わせゴールを奪うと、またも **エグチ** のスルーパスに反応した **MF たけちゃん** が走り込み、得意の左足で流し込む見事な得点。 **結果 8 - 0** という大差で勝利し初戦を終えた。

この代でここまで得点を取ったのは初めてであり、途中出場の選手が結果を残したのは今後に向け好材料だが、ゴール前の精度の問題から、逃している得点も多々あったことも忘れてはならない。我々はまだ何も得ていないのだ。完勝に浮かれること無く、残りの M リーグ 2 試合をしっかりと勝ちきって、県大会出場をまずは決めよう。

高橋コーチは、それまで右 SB での出場が多かった **1 年 ユッキーことツノダ** を FW にしたり、FW での出場が多かった **オサ** を左 SH にしたり、**私が指揮を執ったらしなかったであろう工夫の布陣で試合に臨んでくれて、完勝を収めてくれた。**この工夫の成果を自分で観てみるためにも、第 2 戦も同じような発想でオーダー決めを行うしかない。そう考え、第 2 節山形明正戦に臨む。明正は、山東と同じ Y2A 所属で、山東が引き分けた酒西にも勝っている。 **3 節あるリーグのうち、ここがポイントの戦いとなる**ことは間違いない。

5 月 4 日 (土) M リーグ第 2 節山形明正戦の試合が始まると、球際の強い山東の持ち味も出ているが、テクニカルなプレーヤーの多い明正の持ち味も出ている。一進一退。 **ツノダの FW は、ためがあり確かに前線で起点を作ってくれるので有効**だし、これまで控えに回ることの多かった **3 年ウエノ** も献身的に起点を作ってくれる。また、**オサが**一列降りたことで、**中盤でのボール保持に安定感が出た。**それもこれも、ダイキ負傷により、それまでボランチを務めていた **2 年ユースケ** が CB にコンバートされ、それまで FW を務めることの多かった **3 年ニコラスことシオン** がボランチにコンバートされシーズンインし、「はまった (コンバート成功した)」ことにより、できた **采配上のゆとり。**また、Y2A の戦いの反省から生まれた布陣でもあり、**Y リーグの戦いを活かした M リーグ** となった。危ないシーンもあった前半終了間際、ペナルティエリアすぐ手前 (明正ゴールを背にしてペナの真ん中やや右) で **個性派俳優ウエノ** が FK を得る。キッカー候補は **右利きのユッキーと左利きのノブ** だが、位置的には右利きの選手の方が蹴りやすい。注意深く観ていると、やはりキッカーはユッキーになった模様。「ユッキーの方が可能性あるんじゃない？」とつぶやく高橋コーチに対して、不肖今野監督は「ユッキーのキック、上に上がるんだよな～」とつぶやき返した刹那、**ユッキーの壁越しのカーフシュートが鮮やかに明正ネットを揺らし、山東先制に成功。**思わず、高橋コーチと顔を見合わせるとともに、選手を信じ切れなかった自分を恥じる。 **高橋コーチ、さすが!** そして、前半終了。後半は、山東の守備がより安定して、前半より安心して試合を観られた。 **CK ヤグチのヘディングがポストに当たったのをウエノが詰めて、待望の追加点** を得る。結局 2 対 0 で山東の勝利。M リーグの天王山を制し、4 チームでのリーグ戦で上位 2 チームに与えられる県総体の切符を手にかける。ちなみに、この試合に、**山東サッカー後援会の大功労者で、長らく副会長を務めて近年は現役の試合に顔をお見せにならなかった奥山前副会長** が、「1 年生に奥山っているだろう、よろしく」と伝えにいらっしやった。ハーフタイムのあわただしい中だったので、「います、メンバー入りしてます、頑張ってます」と伝えたのみで、どんな関係なのか聞けずじまいでしたが、ともかく懐かしい方がピッチに戻られ喜ばずにいらっしゃらなかった。 **奥山さん、以降宜しくお願ひします。**

さあ、Mリーグ最終戦、寒河江高校戦。場所は3試合ともに人工芝の山形明正会場。**勝ってスッキリ県総体を決めたい**。試合が始まると、すぐに、相手ペナルティエリアのなかで相手の手にボールが当たってしまい、**山東PKゲット**。**2年なのに？ユッキー**が蹴ったボールはクロスバーに当たってゴールインする神コースで決まり、山東試合早々に先制する。この試合、山東がボールを保持する時間が長くなることを前提に、そしてYリーグ酒西戦の反省を活かし、布陣も起用も工夫したつもり。**選手もその趣旨をしっかり理解し、焦らず攻めることを実行**。ただし、慣れていないものだから、斜め前にパスできるにもかかわらずバックパスを選択するシーンが目立ち、「焦らない＝無駄に攻撃を遅くする」となってしまう。ここらへんは課題。CKだったかFKだったか、**ともかく3年/フが蹴ったボールをウエノがニアでヘディング**し、追加点を得る。お気づきの読者の方いらっしゃるかと思いますが、**正直山東、セットプレーでしか点を取っていない!** もちろん、それはとても大切ですけど・・・それしかできないのはダメですよ。後半、CBの甘さから失点し、2対1と迫られるも、**途中出場の2年MFワタル**が中央でボールを受けそのまま右足ボレーで放ったシュートが相手に当たり角度が変わり、ネットを揺らして、突き放すことに成功。結局3対1で山東の勝利。

Mリーグ3連勝で県総体の切符を得て、まずは一安心。決して良い内容ではなかったかもしれないが、公式戦で大切なのはまず結果。ただし、上述の通り、Yリーグでの反省を活かしたMリーグでもあり、チームの戦い方のバリエーションを増やすことができた。すなわち、結果だけでない収穫の多い3連戦となりました。あとは、アキシンの回復を待つのみ!! 応援ありがとうございました。すぐ、地区総体が始まります。Mリーグのブロックで1位になったおかげで、Y1のチームと対戦するトーナメントに入ることができました。県総体前に貴重な経験を積めます。またも応援、宜しくお願い致します。

5月11日(土) 地区総体順位決定トーナメント第1試合 日大山形戦 @山形市スポーツセンター (落合) 南 11:05~

勝つと

5月12日(日) 地区総体順位決定トーナメント準決勝 城北と山南の勝者 @山形市球技場 11:35~

勝つと

5月12日(日) 地区総体順位決定トーナメント決勝 @山形市球技場 14:55~

保護者会主催

総体激励会・新入生歓迎会

4月27日(土)PTA総会のあった日の夕刻より、保護者会主催の総体激励会・新入生歓迎会がホテルメトロポリタン山形にて行われました。会に先立ち、保護者会総会も行い、終了し次第、開会。**新入生8名**の保護者を含む、多数の保護者が参加して下さいました。

一流の人間になるためには当たり前のことを当たり前以上の熱意で行うことを説く**橋本保護者会長**のお話の後、顧問のスピーチ、そして、2節までのリーグ戦の戦いに一定の評価を与えつつも檄を飛ばした**清野総監督（後援会名誉会長）**のお話の後、乾杯。賑やかな時間が持たれました。またこの会は、**新顧問の御船先生、新コーチの小池さん**（山東第59回卒）の正式なお披露目となりました。

会の途中では、1・2・3年生が一人ずつスピーチ。例年3年生のトリを飾るのは主将のスピーチなのですが、**3年マネのアヤ**がトリでスピーチを行ったこと、そして「当初マネになるつもりはなかったが3年生のある部員から『絶対全国に連れて行くから』という言葉でマネになった、だから・・・」というスピーチの内容が、とても印象深かった。その後は、恒例の？ 1年生の芸大会。特に印象深かったのが、ギャグ7連発にすべて**オニこ**と**オニコシ**が登場していたこと。また、保護者のなかには、**メッシ⁵こと1年のダイキ**の絶妙な間を褒めたたえる方もいらっしゃいました。保護者のみで行われた2次会も盛り上がりました。

保護者の皆様、選手・スタッフともども、英気を養うことができました。ありがとうございました。

⁵ 実は、メッシというあだ名は、二人目です。第一号は、山東第62回卒の選手でした。